

本年の黒星病は、生産者の皆様の精力的な対策の実施によって、発生は極少で推移していましたが、7月の多雨の影響により「幸水」果実への黒星病の発生が見られました。

今後、①徒長枝等の葉の黒星病秋型病斑から降雨により芽に黒星病菌胞子が侵入し翌春の芽基部病斑に、②落葉の放置は、翌春の地表面からの黒星病菌胞子飛散の原因になります。来年の黒星病の発生を防ぐためにも、秋季防除や落葉処理の徹底をお願いします。



黒星病秋型病斑 (薄墨色の黒い斑点)

## 1 これからの防除について

19回目は秋型病斑葉発生防止のため、20～22回目は来年の芽基部病斑発生防止のための防除となります。

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象 病害虫	防除 実施日
19	10月11～ 13日頃 (「新高」収穫終了後)	オーソサイド水和剤 80 1,000倍	3日	300 リットル/10a	黒星病	
20	10月21～ 23日頃	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日	300 リットル/10a	黒星病	
21	10月31～ 11月2日頃	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日	300 リットル/10a	黒星病	
22	11月10～ 12日頃 80%落葉後	ドキリンフロアブル 1,000倍	3日	300 リットル/10a	黒星病	

### 【注意事項】

- 混植園で「新興」等、実のなっている品種に農薬がかかった場合は、3日間(72時間)収穫できません。  
万が一、散布後72時間以内に収穫した場合は、果実を破棄してください。
- 現在収穫中の周囲の園地に農薬が飛散しないよう十分注意して散布して下さい。

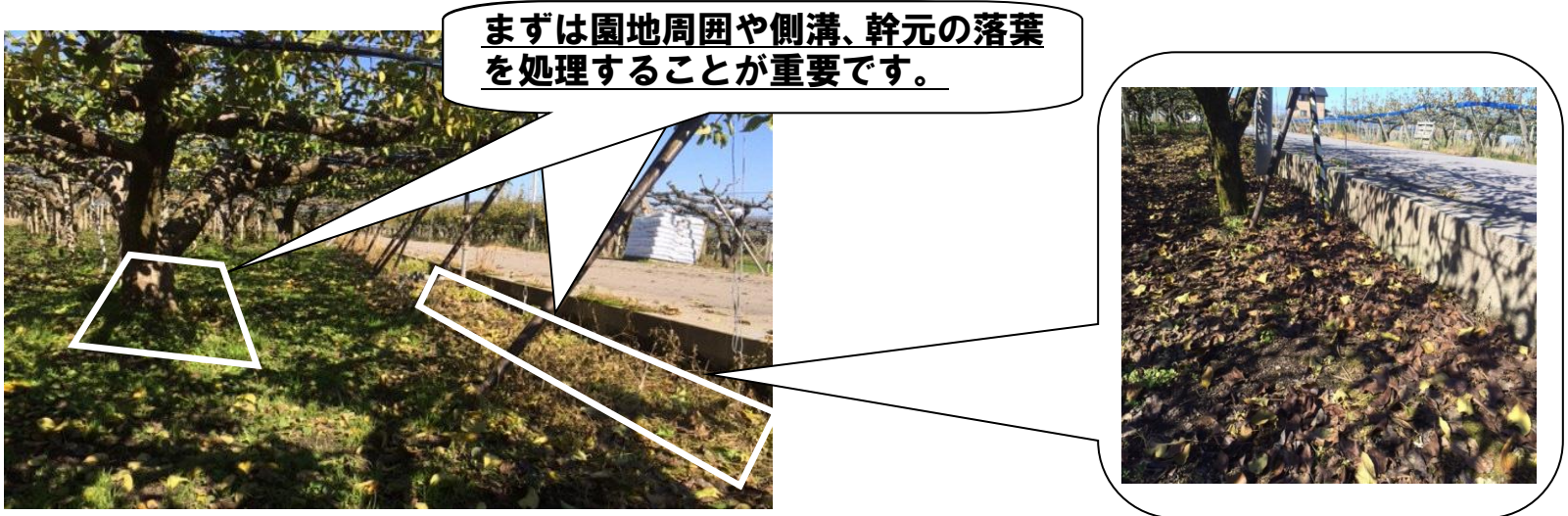
## 2 本年も必ず落葉処理を実施して下さい！！

- 本年は、黒星病斑葉の発生は少い状況でしたが、落葉処理を省略してよいわけではありません。
- 今後、徒長枝等の葉に黒星病秋型病斑が発生し、病斑が着いた落葉の放置により、翌春の地表面から黒星病菌胞子が飛散し、幼果の病斑発生の危険性が高まります。
- ていねいな落葉処理を実施して、黒星病菌の越冬を防止しましょう！！

(1) 実施時期：11月中下旬（落葉後）～2月末

(2) 落葉処理の方法

- ①落葉処理の精度が低いと十分な効果を得ることができません。
- ②園地周囲や幹元の葉は、松葉ぼうき等で集めて処分する他、園地内部でモアやロータリー等を使用する場合は、低速で走行する等丁寧に葉を粉碎し、すきこんで下さい。



【処理機械別の機械速度、処理時間（目安）】

処理機械	機械速度、処理時間等
乗用モア	2回処理（1回につき10aを45分で）
ロータリー	1 km/h以下の速度で、10aを60分以上かける
乗用モアとロータリーの併用	・モア：10aを30分かける ・ロータリー：1.5～2 km/hの速度で10aを45～60分かける

※落葉処理の未実施あるいは処理精度の低い園地は、自園地のみでなく、隣接園地（他の生産者）にも被害を及ぼします（産地全体での取り組みが重要です）。

(3) 落葉処理の留意点

- ①雑草が繁茂している場合は、落葉をかき集めやすくするため、あらかじめ草刈りや除草剤散布等をしておきましょう。
- ②葉の原形が地表面に残ったままだと、病原菌が越冬します。機械による粉碎や耕起は十分に行なって下さい。
- ③チップー等で粉碎したせん定枝を園内に放置しても、黒星病の発生には影響しないとされています。ただし、粉碎後に落葉と一緒にロータリー等で耕起し、すき込むと土壌性病害（白紋羽病）の発生を助長させるので、注意して下さい。

**今年も黒星病対策研修会を下記のとおり開催します。ぜひ参加されますよう、お願いします。**

**日 時 令和2年10月17日(土)**

**第1部 13:15～14:45（旧第1選果場管内生産者対象）**

**第2部 15:15～16:45（旧第2選果場管内生産者対象）**

※第1部、2部とも同様の内容です。

**場 所 多目的研修梨会館**

**内 容 ①本年度の黒星病発生要因と次年度対策 ②黒星病芽基部病斑の発生軽減対策**